

戦争と平和

[1947年 東宝]

[スタッフ]

脚本 八住利雄
監督 山本薩夫
" 亀井文夫
撮影 宮島義勇
照明 若月荒夫
録音 空閑昌敏
音楽 飯田信夫
美術 河東安英

[出演者]

伍東康吉	池部良
町子	岸旗江
小柴健一	伊豆肇
茂男(4歳の時)	大久保翼
茂男(7歳の時)	大久保進
キャバレーの経営者	菅井一郎
隣組長	島田敬一
山村の老妻	藤間房子
アパートの若い女	谷間小百合
近所の娘	三谷幸子
その母	田中筆子
山村の老人	北川耕三
ダンサー	高野千代
康吉の妹	飯野公子

(白黒／スタンダード／モノラル／100分)

新憲法発布を記念して、憲法普及会が映画各社に提案した企画のうち、「戦争放棄」の題材を担当した東宝が、伊藤武郎プロデュースのもと、記録映画作家の亀井文夫と劇映画監督の山本薩夫の共同監督により製作した、終戦直後の日本映画を代表する一本。戦死公報を受けた妻・町子が、前線で精神的な障害を受け帰還していた、夫の親友・康吉と再婚する。しかし、度重なる空襲により、康吉の病状は悪化。そこに中国で捕虜として命拾いをした夫・健一が帰還し、三人の間に新たな悲劇が襲う。D・W・グリフィスの映画『イノック・アーデン』を下敷きに、ニヒリズムと解放感の錯綜した戦後心理を捉えた八住利雄の脚本、トラウマを抱えた難しい役どころに挑んだ池部良の熱演、記録映画のフッテージを盛り込みながら、戦地、銃後そして戦後の日本の姿をリアルに再現した映像など、見応えのある大作となっている。占領軍による検閲により30分以上が削除されたものの、観客・批評家からの評価は高く、『キネマ旬報』ベストテンで第2位に選ばれた。